

## 「産業教育の役割・・・子どもの貧困問題から考える」

現在、沖縄は様々な課題（基地・産業振興・雇用・所得・貧困・離島過疎・健康長寿・環境等）を抱えています。特に学校においては、学力・不登校・退学・進学率・就職率・特別支援教育等々・・・多くの課題があります。

上記の様々な課題を解決するために、「人材育成」は大きな鍵となります。教育に携わる一人一人が、沖縄の様々な現状（課題）を理解し、教育をあずかるという立場で、県民の生活の向上のため、何が必要か考えなければなりません。

学校には様々な児童・生徒がいます。勉強の得意な子、そうでない子、運動の得意な子、そうでない子、障害の有り無し・・・そのような全ての子どもたちが明日の沖縄を創造し、沖縄を支えてくれる人材〔人財(財産)〕になります。

学校・行政が一体となって、これまで以上に、児童・生徒をより一層伸ばす方策を考え、努力をし、ダイヤモンドのような原石の子ども達を確実に磨いていく必要があります。もちろん、それには家庭や地域との連携も欠かせません。

しかし一方で、様々な問題行動を抱えた子も多く、現場の先生方が生徒指導で難渋し、大変な努力をしている現実もあります。また、そのような問題行動・学力問題等と貧困との関連を指摘するデータも示されています。

新聞で、『貧困のスパイラルを抜けるためには高校を卒業し就職することが大きなポイント』になるという記事がありました。

沖縄県の高校卒業後の高等教育（大学・専門学校）への進学率は 39.2%であり、全国平均に比較して大きな開きがあり、高等教育への進学率を上げる努力をする必要があります。

見方を変えれば、6割を超える生徒が高校を卒業し社会に出ている現状があり、特に「進路が決定してない高校卒業」は、全国 4.55%に対して、本県が 14.53%であり、3倍強という現実もあります。そのような現状を考えたとき、本県においては、他県とは異なる専門高校の

大きな役割があるのではないかと考えます。

現在、県内の専門高校は20校（農業高校4校、工業高校7校、商業高校5校、商工高校2校、水産高校1校、総合実業高校1校）あります。また普通高校にもコザ高校商業科、首里高校染織デザイン科、久米島高校園芸科があり、全体で12,000名余りの生徒が産業教育（職業教育）を学んでいます（本県高校生は45,000名）。現在は、専門高校でも大学等へ進学する生徒も多くおりますが、多くの生徒が資格取得に励み、県内外の企業に就職し頑張っています。また、全国的に専門高校を卒業した生徒はニート・フリーターが圧倒的に少ないとのデータもあり、三年間の学びで、職業観・勤労観が育っている結果だともいえます。



県内の貧困問題を考えたとき、家計が厳しくても大学等に進学できる社会を目指す一方で、専門高校等を卒業し（手に職をつけさせて）、確実に就職に結びつけさせてあげることが、将来のスペシャリストの育成に繋がると同時に、県の社会的問題である貧困のスパイラルからの脱却を図ることにも繋がります。別の視点からの本県専門高校の使命を考えることができるのではないかと考えます。  
〔喜屋武センターメルマガ投稿記事より〕

先生方へ

日頃の教育活動お疲れ様です。生徒指導や学習指導等で難渋することも多いですが、難しい場面になったら、立ち止まって、本県教育をあずかる沖縄県の公務員、教職員として俯瞰的に本県教育を見ていくことが大事です。

様々な問題行動や基礎学力の問題、基本的な生活習慣の問題等、指導の難しい生徒も一部におります。またそのような生徒をあずかっていることに、誇りを持って欲しいと思います。皆で頑張っていきましょう！